

平成28年10月31日

公益財団法人 持田記念医学薬学振興財団

平成28年度持田記念学術賞並びに研究助成等について

公益財団法人 持田記念医学薬学振興財団（理事長：持田直幸、以下「当財団」）は平成28年度
の持田記念学術賞受賞者、並びに研究助成金及び留学補助金交付対象者を決定しましたのでお知らせ
いたします。

今年度の持田記念学術賞には16名の研究者が推薦され、その中から東京大学の水島昇博士と
慶應義塾大学の本田賢也博士を選出しました（褒賞金：1000万円/件）。研究助成及び留学補
助には761件の申請があり、研究助成金交付対象者95名（300万円/件）、留学補助金交付
対象者20名（50万円/件）を選出しました。

平成28年度持田記念学術賞、並びに研究助成金及び留学補助金の贈呈式を平成28年11月
10日(木)15時よりステーションコンファレンス東京（東京都千代田区）において行います。
今年度は研究助成金等として、総額3億1500万円を贈呈します。

研究領域		研究助成	留学補助	学術賞
領域1	バイオ技術を基盤とする先端医 療に関する研究	13件	4件	2件
領域2	バイオ技術を基盤とするゲノム 機能/病態解析に関する研究	16件	4件	
領域3	免疫/アレルギー/炎症の治療 ならびに制御に関する研究	14件	5件	
領域4	循環器/血液疾患の病態解析/ 治療制御に関する研究	16件	4件	
領域5	創薬・創剤の基盤に関する研究	14件	1件	
領域6	創薬とその臨床応用に関する 研究	22件	2件	
合 計		95件	20件	2件

当財団は、昭和58年の創設以来、研究助成1931件（計33億5999万円）、留学補助471
件（計2億3550万円）、研究者招聘助成232件（計1億1600万円）、持田記念学術賞66件（計
3億1200万円）の総額40億2349万円の助成並びに贈呈を行っております。当財団は、今後も
多くの研究者へ研究支援を行い、医学・薬学の振興に貢献してまいります。

以上

<本件に関する問い合わせ先>

公益財団法人持田記念医学薬学振興財団 zaidan@mochida.co.jp

平成28年度持田記念学術賞受賞者



水島 昇

東京大学大学院医学系研究科 教授

受賞研究テーマ

「哺乳類におけるオートファジーの生理機能と
その分子基盤の解明」

水島博士は、酵母において「Atg12 結合システム」というオートファジーに必要な分子装置を発見した。その酵母で得た知見を応用して哺乳類のオートファジー関連遺伝子を10以上同定し、哺乳類オートファジー研究の分子生物学的基盤を構築した。特に、オートファゴソーム形成機構やオートファゴソームとリソソームの融合機構の研究で世界を先導した。一方で、全身のオートファゴソームが蛍光標識される「オートファジー可視化マウス」を作製し、オートファジー研究を飛躍的に拡大させた。また、さまざまなオートファジー能欠損マウスを世界に先駆けて作製し、オートファジーの生理的役割を解明した。さらに、神経変性疾患SENDA/BPAN病の原因としてオートファジー関連遺伝子の変異を同定し、オートファジー機能低下がヒト神経変性疾患の原因であることを初めて示した。

以上の研究成果により、オートファジーという未解明の細胞内分解機能を独自の手法と視点で酵母の細胞生物学から哺乳類の生理学・病態生理学へと発展させている。

○主な略歴

- | | |
|----------|----------------------------------|
| 1991年3月 | 東京医科歯科大学医学部医学科 卒業 |
| 1996年3月 | 東京医科歯科大学大学院医学研究科内科学専攻博士課程 修了 |
| 1996年4月 | 日本学術振興会特別研究員 |
| 1998年10月 | 岡崎国立共同研究機構基礎生物学研究所非常勤研究員 |
| 1999年10月 | 科学技術振興事業団さきがけ研究21研究員 |
| 2002年4月 | 岡崎国立共同研究機構基礎生物学研究所 助手 |
| 2004年4月 | 財団法人東京都医学研究機構東京都臨床医学総合研究所 副参事研究員 |
| 2006年9月 | 東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科細胞生理学分野 教授 |
| 2012年10月 | 東京大学大学院医学系研究科分子生物学分野 教授 |

○主な受賞歴

- | | |
|----------|------------------|
| 2010年10月 | 第5回日本生化学会柿内三郎記念賞 |
| 2011年11月 | 武田医学賞 |
| 2013年9月 | トムソン・ロイター引用栄誉賞 |
| 2016年3月 | 上原賞 |

平成28年度持田記念学術賞受賞者

**本田 賢也**

慶應義塾大学医学部 教授

受賞研究テーマ

「本質的に重要な腸内細菌株コンソーシアムの同定単離と
その臨床応用に関する研究」

消化管管腔には1000種類以上の常在細菌が存在し、様々な疾患への影響が示唆されているが未だ明確にはされていない。本田博士は、殆どの嫌気性菌を培養できる技術を持ち、特定の腸内細菌種だけを持つマウスを作成する技術(ノトバイオート技術)と次世代シーケンサーによる腸内細菌叢解析(メタゲノム解析)を組み合わせた統合的なアプローチにより、複雑な腸内細菌叢と宿主細胞の機能を明確に関係づける方法論を開発した。このアプローチにより、Th17細胞の分化を特異的に誘導する消化管常在菌として、セグメント細菌や20菌株のヒト由来菌の同定に成功した。また、制御性T細胞(Treg細胞)を特異的に誘導するマウスあるいはヒト由来クロストリジウム属菌の同定にも成功した。

これらの成果は、腸内細菌叢と腸管の免疫システム間のバランスがヒトの身体の恒常性を保つ中核を成し、このバランスが崩れることが慢性炎症や自己免疫疾患など様々な疾患と関連している可能性を強く示唆するものである。このように独創的な解析系を立ち上げて新たな研究分野の開拓へと大きく発展させている。

○主な略歴

- | | |
|----------|------------------------------------|
| 1994年3月 | 神戸大学医学部 卒業 |
| 1994年5月 | 神戸大学医学部附属病院放射線科 研修医 |
| 2001年3月 | 京都大学大学院医学研究科分子医学系 修了 |
| 2001年4月 | 東京大学医学系研究科免疫学講座 助手 |
| 2007年4月 | 大阪大学医学系研究科免疫制御学教室 准教授 |
| 2009年12月 | 東京大学医学系研究科免疫学講座 准教授 |
| 2013年4月 | 理化学研究所統合生命医科学研究センター消化管恒常性研究チームリーダー |
| 2014年7月 | 慶應義塾大学医学部微生物学免疫学教室 教授 |

○主な受賞歴

- | | |
|----------|-----------------------|
| 2014年6月 | ゴットフリードワグネル賞 2014 優秀賞 |
| 2014年11月 | 慶應医学会野村達次賞 |
| 2016年2月 | 井上学術賞 |